

平成 26 年度全国学力・学習状況調査結果と指導改善計画 [国 語] 三原市立 船木小学校

本年度通過率

	国語A	国語B
本校	74.4	56.7
広島県	75.9	58.3
全国	72.9	55.5

本年度の結果について

○国語の結果において、A問題は74.4%、B問題は56.7%の通過率となっている。この結果から、基礎的・基本的な内容については概ね定着していると考えられるが、活用に課題がある。A問題を領域別に見てみると、「書くこと」88.9%（全国比+16.7、県比+13.3）、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」77.8%（+4.1、+0.9）と全国、県を上回っている。しかし、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」については、それぞれ50.0%（-22.4、-25.2）、66.7%（-1.8、-3.6）と全国、県を下回っている。B問題については、「付箋の内容を関係付けて、野口さんのまとめを書く」の通過率が16.7%で、まとめの参考となる文章を問題文の中から見つけてまとめを書くことができていなかった。

○昨年度は、「具体例を挙げて自分の意見を書くこと」、「文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って1文を2文に分けて書くこと」に課題があった。そこで、自分の経験・生活をふり返って具体的な事例を挙げながら意見を書かせる、授業や日記指導・作文指導の中で主語をつけて話したり書いたりさせる、一文を長くしすぎないように短い文を接続語でつないで表現させるという指導を行ってきた。その結果、「書くこと」の通過率が20ポイント上がった。

成果と課題

教科学力調査から ※（ ）内は全国通過率差

- 【定着している内容】
- 言葉の意味と使い方を捉え、適切なものを選択する。(はかる) 100% (+25.7%)
 - 「～たり、…たり」という表現に直して書く。100% (+25.1%)
 - 情景描写を正しく理解し、適切なものを選択する。83.3% (+24.6%)
- 【課題】
- ☆話し合いの記録の仕方として適切なものを選択する。50.0% (-22.4%)
 - ☆学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む。書く。
(街灯) 50.0% (-37.0%) (よぼう) 66.7% (-10.7%)
 - ☆B問題・付箋の内容を関係付けて、野口さんのまとめを書く。16.7% (-10.2%)

質問紙調査から ※（ ）内は全国通過率差

- 【肯定的な回答の割合が高かったもの】
- 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている。100% (+29.3%)
 - 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している。83.3% (+24.8%)
- 【課題】
- ☆調査問題の解答時間は十分であった。33.3% (-17.3%)
 - ☆国語の勉強は好きである。50% (-9.2%)
 - ☆国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている。66.7% (+5.3%)

課題等に対応した改善指導内容及び方法（授業）

- ☆話し合いの内容を黒板にまとめた【記録の一部】の見方が分かっていない。話し合いの観点に基づいて情報に関係付けることができるように、日頃から、このようなまとめ方を活用する経験をさせていく。
- 継続して取り組むこと
- ☆国語辞典の活用計画に沿って、ことばの学習の時間を中心に国語辞典を引く活動を進める。
- ☆朝の学びタイム、放課後の個別補充学習で、診断的評価を活かしたフォローアップテスト・ドリル学習等、繰り返し練習を徹底し、既習の漢字の読み書きを含め、基礎学力を定着させていく。(日常的に既習の漢字を使って書くように指導する。)
- ☆「読むこと」と「書くこと」の領域をリンクさせ、図や表、付箋などの資料と文章を関係付けて読む活動、事実と意見、具体例等、段落相互の関係に注意して文章を構成し書く活動、自分の考えや体験をまとめる活動を設定し指導していく。国語科以外の教科・領域においても、自分の考えや体験をまとめるなどの活動を積極的に取り入れ、書く活動を数多く体験させていく。また、学びタイムで、指示語や接続語、文章の構成等の問題に取り組みせ、不十分なところは個別指導を行う。

平成26年度全国学力・学習状況調査結果と指導改善計画〔算数〕 三原市立 船木小学校

本年度通過率

	算数A	算数B
本校	85.3	62.8
広島県	80.7	60.1
全国	78.1	58.2

本年度の結果について

○算数の結果において、A問題は85.3%、B問題は62.8%の通過率となっている。この結果から、基礎的・基本的な内容については定着していると考えられるが、活用に課題がある。A問題を領域別に見てみると、「数と計算」85.4%、「量と測定」83.3%、「図形」79.2%、「数量関係」94.4%で、いずれも全国・県を上回っている。しかし、「示された図を基に、青いテープの長さが白いテープの長さ(80cm)の0.4倍に当たるときの青いテープの長さを求める式を選ぶ」という問題は通過率16.7%であり、割合が1より小さい場合でも、比較量の求め方が(基準量)×(割合)になることの理解が不十分である。

○昨年度は、「AとBの2つのシートの混み具合を比べる式の意味を正しく理解できていない。」また、「ワールドカップ後の1試合当たりの観客数がワールドカップ前の1試合当たりの観客数の何倍になるかを求める方法を式や言葉を使って書くことができていない。」など、単位量当たりの問題を解くことに課題があった。そこで、混み具合を体感できるような活動を取り入れたり、1㎡当たりの人数を求める式と1人当たりの面積を求める式の意味のちがいを捉えさせたりした。また、日頃から、授業の中で自分の考えを書く場、説明し合う場を設定し、式や数、言葉を使って説明する活動をさせてきた。

成果と課題

教科学力調査から

※()内は全国通過率差

【定着している内容】

○示された図を基に、赤いテープの長さが白いテープの長さ(80cm)の1.2倍に当たるときの赤いテープの長さを求める式を選ぶ。100% (+28.1%)

○8㎡に16人いるAの部屋について、1㎡当たりの人数を求める式を書く。83.3% (+22.5%)

【課題】

☆示された図を基に、青いテープの長さが白いテープの長さ(80cm)の0.4倍に当たるときの青いテープの長さを求める式を選ぶ。16.7% (-37.4%) →80÷0.4を選んでいる誤答が多い。

☆8㎡に16人いるAの部屋の様子を表している図を選ぶ。(単位量当たりの大きさを調べる場面と図とを関連付けることができる。)66.7% (-15.6%) →8㎡の部屋を選べていない。

☆B問題・使いやすい箸の長さの目安を基に、一あた半の長さを表している図を選ぶ。16.7% (-29.4%)

質問紙調査から

※()内は全国通過率差

【肯定的な回答の割合が高かったもの】

○算数の授業で新しい問題に出会ったとき、それを解いてみたいと思う。

○算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える。

○算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている。
いずれも100%

【課題】

☆算数の勉強は好きである。66.6%

☆算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている。
66.6% (-16.8%)

課題等に対応した改善指導内容及び方法(授業)

☆割合が1より小さい場合でも、比較量の求め方が(基準量)×(割合)になることを図を基に考えさせ、図と式・答えを関連付けて説明させる。

☆かけ算、わり算の意味についておさえる。(計算の結果と問題場面とを対比して演算決定が的確か考えさせる。)

☆8㎡に16人いるAの部屋について、1㎡当たりの人数を求める式を書くことはできるが、8㎡に16人いるAの部屋の様子を表している図を選ぶことができていない。このことから、問題解決において、具体的な操作や体験をしたり、問題場面を図や表に表したりする活動と、立式・答えをつなげて考えさせていく。

☆次のようなことを継続して取り組み、児童の意欲、力を高める。

- ・操作活動、体験活動を通して、量感を養う。
- ・自分の考えを書く場の設定、時間保障をする。
- ・自分の考えを図や表、グラフなどを使って書き、式・答えと関連付けて考えさせ、算数的用語を使って説明させる。